

物。工場が遠くなるので、どうさばいて運ぶのだろうか」と語り、70代農家からは「地元で工場があるから作ってきた人は多いのでは」との声も聞かれる。

土肥副所長は「原料はこれまで通りに受け入れ、合理的な輸送を考えながら他工場に割り振っていく。生産者が心配されることがないように対応や準備をしていきたい」と話している。



工場内に運び込まれたビート



工場最後になる製糖作業が行われている
北海道糖業本別製糖所

ビート生産枠9万トン削減 26年度まで段階的に 農水省案、自民了承 輪作、製糖工場維持に懸念

2022年11月3日（木）

農林水産省は2日、自民党農業基本政策検討委員会などに、ビート交付金の見直し方針と2023年産からの畑作物直接支払交付金（ゲタ対策）の単価を示した。ビートは交付金の対象数量を現行の産糖量64万トンから段階的に削減し、26年度に55万トンとする。小麦や大豆などの平均交付単価は引き下げ、でん粉原料用ジャガイモなどは引き上げる。

国内糖を保護する国の糖価調整制度では、安く輸入される原料糖から徴収した調整金をビート交付金の財源に充てており、交付対象に64万トンの上限枠を設けている。砂糖の消費減で在庫が増え、コロナ禍などで輸入量が減って調整金の収支が悪化しているとして、ビート生産の方針見直しが議論されてきた。

見直し方針は、交付対象の上限数量を23年度に60万トンにするなど段階的に下げ、4年後には現行から9万トン削減する内容。計画的な生産を進めるための作付指標面積は、今年の5万7500ヘクタールに対して26年度は5万ヘクタールまで減らす。

来年度から3年間適用される畑作物の数量払い単価は、小麦と大豆、ビートで引き下げ、でん粉原料用ジャガイモやソバは引き上げる。交付単価は直近の生産費や収量、販売価格を踏まえて3年ごとに見直されている。小麦な

どは昨年産が豊作に恵まれ、引き下げの算定になった。ビート交付金の方針と共に、同委員会です承された。

ビートは道内の環境に適した寒冷地作物として、畑作の輪作体系に位置付けられている。十勝が栽培農家戸数や面積、生産量でトップを占める。農水省の方針に対して、道農民連盟の大久保明義委員長は、輪作や製糖工場の存続への影響を指摘し、「安心して作付けできる政策と、国の調整金の赤字解消や在庫処理など抜本的な政策を並行して議論すべき」と談話を出した。

十勝地区農協畑作青果対策委員会の鈴木雅博委員長（JA十勝池田町組合長）は「ビートは担い手の生産意欲の減退が懸念される。畑作物の交付単価は、激変緩和対策は取られるものの、現在の生産費高騰を考えると差し引きでプラスになる訳ではない。見直しを1年見送ってほしい」と語った。

【農業ガイド1378号】 大豆「良」ビート「不良」 7月中旬の雨が影響…秋まき小麦は「やや不良」 十勝農試 定期作況報告

2022年12月3日（土）

道総研十勝農業試験場（芽室）は11月29日、2022年産の畑作物の定期作況報告を発表した。秋まき小麦が「やや不良」、ビートは「不良」とどまった一方、大豆は「良」、ジャガイモは「やや良」と平年作を上回った。作況判断は芽室町新生のは場の生育で、管内全体を示すものではないが、昨年に比べて振るわない今年の作柄の目安になる。